

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—144081

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 24 D 1/12

識別記号

庁内整理番号  
6543—4B

⑭ 公開 昭和56年(1981)11月10日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮ 紙巻きたばこ

⑯ 特 願 昭55—46579

⑰ 出 願 昭55(1980)4月8日

⑱ 発 明 者 平岡忠保

広島市西区庚午南二丁目3番15

号

⑲ 出 願 人 平岡忠保

広島市西区庚午南二丁目3番15

号

⑳ 代 理 人 弁理士 古田剛啓

明 細 書

1. 発明の名称

紙巻きたばこ

2. 特許請求の範囲

たばこ葉(1)とフィルタ(3)との間に通気性不燃材(2)を介在させたところの筒状体のたばこ葉(1)の外側に加熱後は通気性非燃材となる外筒(5)を配置したことを特徴とする紙巻きたばこ。

3. 発明の詳細な説明

この発明は火災の発生を防止した紙巻きたばこに関するものである。

従来の紙巻きたばこは、喫煙時あるいは喫煙後可燃物に触れると燃え移ることがあるため非常に危険で、毎年火災原因順位の上位にあり、多大な社会的・経済的損失をもたらししている。この発明はこの欠点を除くためなされたものである。

第1図に基いてこの発明の第1実施例を説明す

る。この実施例のものは、たばこ葉1とフィルタ3との間にガラス繊維等の材質からなる通気性不燃材2を介在させたものを巻き紙4で巻き、内筒がたばこ葉に接する紙4の外側にガラス繊維等の材質からなる非燃材5を接層成形して配置し、紙巻きたばこ6が構成されている。

第2図に基いてこの発明の第2の実施例を説明する。この実施例のものは、第1の実施例における巻き紙4の作用を上記非燃材5で兼用したものである。

このような構造であるため、たばこに点火すると、たばこ葉1が燃えて非燃材5が筒状に残り、燃えカスが筒状の非燃材5中に残留し且つ火種が他の物体に直接接触しない。このため喫煙終了まで灰が徒に落下散乱することなく而も火のついたまま放置しても、接触する他の可燃物や身体を加熱することなく不燃材2に至る迄燃える。このため火災や火傷の原因となることもなく効果抜群

である。

また、たばこ葉1が燃えるに伴ない非燃材5を  
 接着した接着剤が燃えるため加熱された非燃材5  
 は通気性を持ち喫煙に支障がない。

そのうえ不燃材2の作用でフィルタ3が熱く  
 ならずたばこ葉1の全量を喫煙出来、経済的で、消  
 火する手間も省ける。而も不燃材2がフィルタの  
 効果を持つため非常に有用である。

また路上等に捨てられた場合でも、踏まれるう  
 ちに不燃材2及び非燃材5は、ともに粉状となり  
 土砂と混じつて消失するため従来の紙巻きたばこ  
 と何ら異なることはない。

#### 4. 図面の簡単な説明

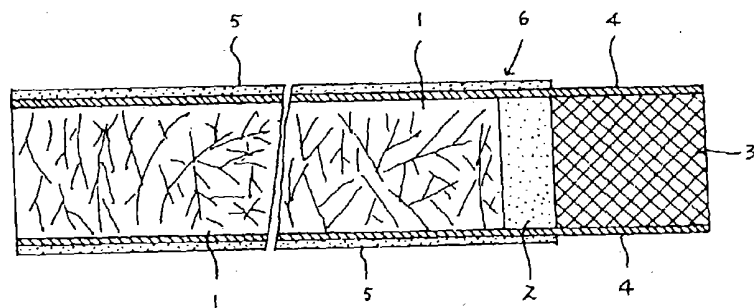
第1図及び第2図はそれぞれ本発明の異つた実  
 施例を示す断面図である。

- 1 たばこ葉
- 2 不燃材
- 3 フィルタ

- 4 巻き紙
- 5 非燃材
- 6 紙巻きたばこ

特 許 出 願 人 平 岡 忠 保  
 代 理 人 井 堀 士 百 田 剛 啓

第1図



第2図

